



\*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

## 「顕著な大雪に関する情報」とは… ～今季一番の最強・最長寒波、警報級の大雪に注意を！～

今日は、久しぶりの積雪の中での登校となりました。多くの生徒がスノトレや長靴、ブーツを履いて、足下に注意をしながら、慎重に歩いていましたが、時間に余裕を持って家を出たおかげで、遅刻はほとんどありませんでした。さすが浅中生です。また、雪かきボランティア（右写真）の生徒のみなさんが朝早くに登校し、玄関や給食の搬入口、浅野川沿いの道からの坂道を除雪してくれました。ありがとうございます。金沢気象台等の予報では、今季最強寒波はいつもより長く居座り、来週の26日（月）から27日（火）ごろまで積雪が増える見込みです。雪かきボランティアのみなさん、今後もご協力をお願いします！



昨日の深夜に「顕著な大雪に関する情報」が石川県と滋賀県に発令されました。「顕著な大雪に関する情報」とは、一言で言うと「短時間に、同じ場所で、命の危険があるレベルの猛烈な雪が降っていること」を知らせる緊急のニュースです。中学校の理科や地理で習う知識を使って、考えてみましょう！

### 1 理科（気象）の視点：なぜ「顕著」なのか

理科の「気象の観測」や「大気の性質」の授業を思い出してみましょう。

**JPCZ（日本海小規模低気圧／収束帯）**： 日本海側で大雪が降る際、シベリア高気圧からの冷たい風が朝鮮半島の山脈で二手に分かれ、日本海上で再び合流することがあります。この合流地点（収束帯）では上昇気流が激しくなり、発達した積乱雲が次々と生まれます。

**「線状降水帯」の雪バージョン**： 夏に大雨をもたらす「線状降水帯」と同じように、この雪雲が同じ場所に停滞し続けると、わずか数時間で数、10センチ～1メートル近い雪が積もります。これを気象庁が「顕著な大雪」と呼んで警戒を呼びかけます。

### 2 地理の視点：社会への影響と「雪害」

地理の授業では、日本の気候の特色として「冬の日本海側の降雪」を学びます。

**交通の麻痺**： 中学校の社会科で「交通網の発達」を学びますが、この情報が出るような大雪では、国道や高速道路で車が何百台も動けなくなる「立ち往生」が発生します。

**ライフラインの寸断**： 重たい雪が電線に付着して切断され、大規模な停電が起きたり、物流が止まつてスーパーから食べ物が消えたりすることもあります。

### 3 数学の視点：データの読み解き

気象庁がこの情報を出す基準は、「積雪の深さが、過去に起きた記録的な大雪（3時間や6時間での増加量）に匹敵するかどうか」です。例えば、「3時間で20cm～40cm以上の降雪」といった具体的な数値に基づいています。普段の「雪が降る」という予測ではなく、「統計的に見て異常なスピードで積もっている」というデータに基づいた警告なのです。

生徒のみなさん、この情報が出たときは「外に出るのは絶対に控える」のが鉄則です。学校が休みになったり、早めに帰宅するよう指示が出たりすることもあります。最新の情報は、気象庁のキキクル（危険度分布）などのWebサイトで、今自分のいる場所がどのくらい危険かをリアルタイムで確認することができます。理科で学んだ「偏西風」や「海流」の影響が、目の前の景色をどう変えているのか、科学的な視点でニュースを見てみてください。